

令和 4 年度 事業 報告

1. 概況

令和 4 (2022) 年の景気は、新型コロナウイルスの感染拡大でこれまで抑え込まれてきた経済活動が正常化に向かい、一部に弱さが見られるものの、穏やかな持ち直し傾向が見られました。しかしながら、東ヨーロッパにおける紛争の影響によるエネルギー、穀物価格の高騰に加え、円安の影響で物価が大きく上昇し、製造業をはじめ依然として厳しい状況が続いています。

こうした中、令和 4 年度の契約金額は 1,259,316 千円で、前年比 1.2%減、金額にして 15,576 千円の減収となりました。特に民間企業においては、コロナ禍の影響による就業会員の削減やデイサービスなど運転業務の会員不足が響きました。一般家庭においては、主に除草、剪定、冬囲いなど外仕事の後継者不足等による落ち込みが要因となっています。

契約件数においては、13,045 件（前年度 13,088 件）と前年に比べ 43 件（公共+39、民間+205、家庭▲287）減少し、一般家庭の件数が大幅に減少した結果となりました。

会員数においては、市民向け広報などマスメディアを活用した会員募集のほか、出張説明会や女性会員限定入会説明会、1 月から 3 月の会費無料キャンペーン、また、新たにLINEを活用した会員への情報提供による口コミのお願いなど様々な取り組みを行った結果、年度末 3,002 人（前年度 2,955 人）と前年度に比べ 47 人増加し、粗入会率も 3.0%（前年度 2.95%）となりました。

就業実人員は、2,568 人（前年度 2,603 人）で 35 人減少、就業率は 85.5%（前年度 88.1%）で 2.6 ポイント減少、就業延人員は、264,766 人日（前年度 272,972 人日）と 8,206 人日の減少となりました。

事故件数については、半減を目標に掲げてきましたが、傷害・賠償事故あわせて 47 件（前年度 47 件）となり、内訳についてもほぼ同じ結果となりました。同様の事故を未然に防ぐため、事故の表面的な原因だけでなく、深層にある原因を特定する原因分析と再発防止のための改善策を講じる必要があります。また、全会員が安全就業に対する意識や取り組みを共有し、センターで定める安全就業基準を遵守することで、ほとんどの事故は防げるものと確信しています。

毎年、同様の事故が発生していることから、事故の抑制につながる新たな対策が必要と考えます。

また、令和 4 年度は事務局体制改編の初年度でありましたが、大きな混乱もなく業務を進めることができ、結果として約 2,500 万円の黒字決算となりました。これは、コロナ禍の厳しい状況の中で、会員、役員、職員皆がセンター運営に尽力した賜物と評価しております。

次のとおり、令和 4 年度に実施した主な事業について報告いたします。